牧草と園芸　第69巻第３号（2021年）

雪印種苗株式会社　北海道研究農場　牧草・飼料作物研究Ｉグループ　三輪　哲哉

家庭用芝生の作り方

美しい芝生の育ったお庭は優しい雰囲気を演出し、草花や樹木を一層引き立ててくれたり、夏場に周辺の温度を下げたり、光の照り返しを防いだり、土埃や砂埃を立たなくしたりなど、環境を調節する働きがあるほか多くの効果が期待できます。

芝生を作る（造成する）際は、≪播種（※１、はしゅ）による造成≫と≪張り芝による造成≫の２通りの方法があります。

≪播種による造成≫は、より安価に芝生を美しく仕上げることができますが、芝生の完成までには数か月程度の養生期間を必要とします。一方**≪張り芝による造成≫**は、価格が割高になりますが、時期を選ばず造成することができ、比較的早期に芝生を楽しむことができます。

いずれの方法を用いる場合も、芝生は一度造成してしまうと床土の改良ができないため、まず初めに**≪床土づくり≫**が非常に大切になります。

１．床土づくり

播種による造成および張り芝による造成の何れにも共通

① 芝生は日当りと風通しが良く、水はけも良い場所を好みます。庭木などの障害物が多く日当りや風通しが悪い場合は、障害物を移動することも検討する必要があります。水はけについても、周囲より低く水が溜まりやすい場所がある場合は、低い場所に水が溜まらないように土を盛るなどすることも必要です。

② 床土に砂利が多く混じっていたり粘土が多かったりすると、芝生にとって良くありません。こうした場合は、現行の床土の上全体に黒土などの透水性の良い土を20～30cm客土（※２、きゃくど）します。さらに排水が不良で水が溜まりやすい場合などは、客土の前に暗渠（※３、あんきょ）や排水層（※４）を設置します。

③ 芝生にする場所にもともと雑草が多い場合、一度雑草を除去しても、床土に雑草の種子や根などが残っていると、これらより雑草が繁茂してくることがあります。こうならないためには、予めグリホサート系除草剤（ラウンドアップマックスロードなど）により雑草を極力枯らしておくことも必要です。この後雑草の根や石などを除去して、スコップ（あれば小型耕耘機など）を使用して、芝生の根が生育する深さ10～15cmまでの土壌を耕します（**写真１**）。

④ 基肥として成分量８－12－10％程度の芝生用化成肥料（**写真２**）を、50～100g/㎡散布しま

写真１　耕耘・攪拌作業（耕耘機の例）

写真２　芝生専用化成肥料スノーユーキ１号

す。さらに必要に応じて石灰質資材150～200g/㎡、溶リン100g/㎡程度を散布し、床土と良く混合します（**写真1**）。

⑤ 大人が乗って、軽く足跡が付く程度（**写真3**）まで鎮圧し（**写真4**）、さらにトンボなどを使って床土の表面が平坦になるように（細かい凹凸がなくなるように）整地を行います（**写真5**）。全体に傾斜を付けるか、中央を少し高くして雨水が溜まらないように整地仕上げを行い、表面排水が良好になるようにします。

写真3　大人が乗って軽く足跡が付く程度に鎮圧

写真4　鎮圧作業（板に乗って実施した例）

写真5　トンボによる整地作業

2．播種による造成

① 寒地型芝草として多く利用されているケンタッキーブルーグラスの一般的な播種量は、20～25g/㎡です。また寒地型芝草でケンタッキーブルーグラスとともに、踏まれに強いトールフェスク、日陰などの悪条件に強いチューイングフェスク、初期生育が早いペレニアルライグラスなどを混ぜて使うと様々な環境条件に適応できる芝をつくることができますが、この場合全体の播種量（重量）を25～40g/㎡程度まで増やすことがあります。
面積に応じた量の種子を準備し、さらに種子を３等分程度にしておきます。

② レーキなどを用いて、床土表面に筋を付けておきます。

③ 手播きで播種します。予め等分しておいた種子を縦・横・斜めに播種作業を分けて行うと、均一に播種することができます（**図1**）。面積が大きい場合は、回転式の散布器や落下式の播種器（**写真6**）で播種を行います。芝の種子は小さく風に飛ばされやすいため、風のない日を選んで播種しましょう。

④ 種子と床土がなじむように、②のレーキ跡と垂直な方向になるようにレーキなどを用いて軽く覆土（※5、ふくど）します。このとき深くな

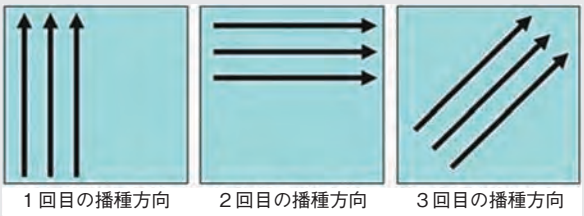

図1　播種作業は、縦・横・斜めに数回に分けて行う

写真6　播種作業（落下式播種器の例）

写真７　遮光ネット被覆による養生

写真８　被覆養生撤去後、刈取り開始前

りすぎると種子の芽だしに良くありません。

⑤　鎮圧を行います。板を敷いて上に乗る（**写真４**）などして（あればローラーを使用）播種した場所をくまなく踏むと良いでしょう。種子を床土に密着させることで、種子を発芽直後の乾燥からある程度守ることができ、発芽を綺麗に揃えることができます。

⑥　遮光ネット（**写真７**）やムシロなどで表面を被覆すると、床土の乾燥を防ぎ、種子の発芽が揃いやすくなります。さらに土壌の乾燥がひどい場合は、散水を行います。

⑦　温度や水分などの条件が良ければ、播種後10～14日位で発芽してきます。被覆養生をした場合、発芽後１週間程度して被覆材の隙間から芝が出てきたら被覆材を撤去します（**写真８**）。発芽直後に病害による立枯れが起こることがあります。ヒドロキシイソキサゾール系殺菌剤（サンブレイク液剤、タチガレン液剤など）を散布すると、防除することができます。

⑧　刈取りは草丈が70～80mmになったら開始します。１回目の刈取りは、葉先を揃える気持ちで、草丈50mm程度に刈揃えます。１週間に１～２回程度刈取り、徐々に刈高を下げていきます。一度に刈高を下げすぎると、芝草を痛めてしまい回復に長期間を要することもあります。

３．張り芝による造成

①　始めに面積分のロール状の張り芝を準備しておきます。芝生の張り方は、「目地張り」と「ベタ張り」があります（**図２**）。目地張りは、芝と芝の間を空けて（目地）芝を張って行く方法です。目地は３cmが標準で張り芝材料の必要面積は80～90％程度で済みますが、目地が埋まるまでには２～３ヶ月以上を要します。ベタ張りは文字通り100％に張る方法で、張り芝の材料を多く必要とします。隙間を空けずに張るため、芝生が早く完成します。ケンタッキーブルーグラスなどの寒地型芝の場合は、ベタ張りが一般的です（ノシバなどの暖地型芝では目地張りを行うこともあります）。

張り芝は園芸センターなどで購入できますが、購入後長期間芝が巻かれたままにしていると、葉が黄色くなり芝生が傷みますので、入手したら早めに張るようにします。

②　芝をきれいに張るための作業の方法として、芝生にする場所の中央付近の適当な所に真直ぐに糸を張り、糸に沿って張り始め、左右方向へ張り進めます（**図３**）。

③　端まで芝生を張り、周辺部で余ったら形を合わ

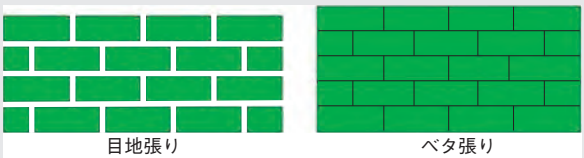

図２　「目地張り」と「ベタ張り」

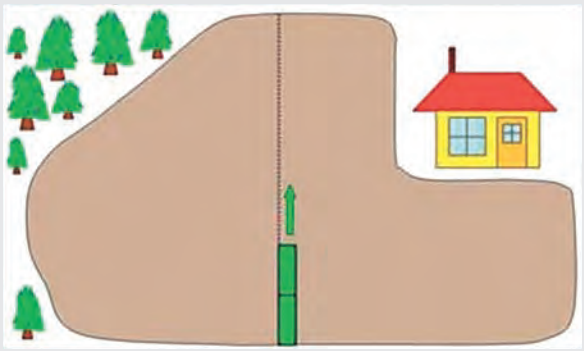

図３　張芝作業は、中央部の適当な所に真直ぐに糸を張り、糸に沿って張り始める

せてカマなどで切取ります。切取った芝断片はとっておき、ほかの周辺部で形が不定形の場所などに張り付けます。

④ 芝を張り終わったら、芝生の上からふるいを使って目土を散布します。芝の葉が隠れない様に厚さ５mm程度に散布し、トンボや竹ほうきなどを使って目土を芝目に良く擦り込みます。目地張りの場合は特に、目地に充分土が入り目地の凹みが残らない様にします。目土は芝表面の仕上がりをきれいにするとともに、当初の乾燥を防ぐ効果も期待できます。

⑤ 芝生面を板で叩いたり、板を敷いて上に乗ったりして（あればローラーを使用して）鎮圧を行います。張り芝を床土に密着させることで、根を良好に活着させることができます。芝生面の傾斜がきつい場合は竹または木の目串を挿すと、張り芝を固定でき良好に活着させることができます。

⑥ 十分に散水を行い、根が下りるまでは芝生に入る際に、芝がずれない様に注意します。

⑦ 張り芝後２週間～１ヶ月位で、張り芝から新しい白根が下り活着します。張った芝の端の方を持ち上げてみて、芝生が剥がれない様であれば芝生の完成です。

⑧ 芝刈は≪播種による造成≫と同様に実施しますが、草丈がより伸びてしまった場合は初めに葉先上部の20～30mm程度を刈揃えるようにし、その後も１週間に１～２回程度刈取りながら徐々に刈高を下げていきます。

以上「芝生の作り方」について説明しましたが、芝生が完成した後の管理作業も重要になります。一度綺麗な芝生が出来上がっても、それを維持するためには適切な管理を継続することが不可欠です。

ただし家庭の芝生にゴルフ場のような完璧な品質を求めると、管理の手間や費用が大きく負担になり、途中で断念してしまうことがあります。芝生の造成をしっかり行ったうえで当年の管理はある程度手間を掛けたほうが良いと思いますが、芝がしっかり定着したのちは、定期的な芝刈作業とある程度の追肥を継続することで、「まずまずの芝生」を維持することは充分可能です。そのためには、ご自身に合った芝刈用の道具と芝生用の肥料を揃えておくとよいでしょう。

芝生の造成および維持管理に関する詳細については、弊社ホームページ（https://www.snowseed.co.jp/use/category/use_lawn/）も参考にしてみてください。

（※１）播　種：たねまきのこと、小さい面積であれば手で播くが、注意して均一にしないと、発芽にムラができてしまう。

（※２）客　土：床土がよくない場合に、表層土を別の良質土に置換え、被せ、または混入すること。客土材料は、黒土などの固結しにくく、透水性の良いものを選ぶと良い。

（※３）暗　渠：地下水位の低下を図る目的で設ける、地下排水のひとつ。穴あきやスリットがある排水管を、下記排水層の下などに埋め、末端から水が流れ出るようにしたもの。設置するためにはある程度知識と技術が必要になる。

（※４）排水層：砂利や砂などを客土の下層に敷き、地下排水を良くするための層。上記暗渠とともに設置すると、排水性はより改善される。

（※５）覆　土：たねまきの後、そのうえに土をかぶせること。またはその土。